

道徳の時間学習指導案

福山市立旭小学校
指導者 藤井 重子

1 日 時 平成14年12月10日（火）5校時

2 学 年 第1学年 藤井学級 22名

3 場 所 1年 藤井学級

4 主題名 森からのおくりもの 3－（1）自然愛護

5 ねらい 身近な自然に親しみ、動植物をかわいがりやさしい心を育てる。

6 資料名 「ほがらか森のくぬぎの木」（すずきみゆき作 金の星社）＜一部改作＞

7 主題設定の理由

- 日常生活の中で、自然とふれあう機会が少なくなっている現代においては、自然に親しんだり自然を愛護したりすることも希薄になりがちである。そんな中で優しい心で生き物に接したりしようとする心、生き物をかわいがろうとする心は、愛情に満ちた生活を営むための基本となるものである。

この段階では身近な動植物に対して、どのような気持ちで接していけばよいかということを考えさせ、動物や植物の立場に立って、やさしい心で接していこうとするおもいやりの心、生き物を大切にすることを育てていくことが必要であると考えます。

- 本学級の児童は、一学期から、生活科「生き物となかよく」の学習を通して、学校で飼っているうさぎやチャボ、アヒルなどの鳥の様子を観察したり、図工で鳥と自分を絵に表すなど、身近な生き物との関わりを持つ経験をしてきた。また、アサガオやヒマワリなどの花を小さな種から育て、生長していく様子について気づいたことを発表したり記録に残したりしてきた。

二学期に入り、秋を迎える頃には、生活科「あきがいっぱい」で自然の変化や自然の不思議さなどに気づいたり、自然と触れ合い木の葉や木の実で遊ぶなどの活動を通して、自然の良さを感じ取らせることができるよう学習を進めてきた。しかし、自分たちが楽しんでいるだけだったり、観察するだけで終わったりと動物や植物の立場に立って接している様子はあまり見られない。

これまでの学習や体験活動をもとに、触れ合うだけでなく、生き物や自然を慈しみ、やさしさや思いやりの気持ちを持って接することの大切さを考えさせていきたい。

- 本資料「ほがらか森のくぬぎの木」は、絵本をもとに改作したものである。ほがらか森をまちにしようとする人間達が森にやってきたが、くぬぎの木の本陰で自然の涼しい風を感じたり動物たちの楽しそうな様子を見て考えを入れかえ、まちにすることをやめて帰っていくという話である。

指導にあたっては、効果音などを入れ、イメージしやすいようにしたり、場面の様子を分かりやすく絵に表して提示したりしていきたい。また、話の中に出てくる動植物に思いを寄せ、手紙を書くように設定し、自分の思いを表すようにさせたい。

9 学習展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	支援○ 評価☆
導 入	1 生き物や自然の様子を想起する。	○どんな音が聞こえてくるか、静かに聞いてみましょう。 ・あつ、鳥の鳴き声が聞こえるよ。 ・虫の声だ。 ・川の流れる音かな。	○鳥や虫の鳴き声などを聞かせ、生き物や自然の様子を思い浮かばせ自然の良さを感じさせるようにする。
展 開	2 話の前半を聞き考える。 3 話の後半を聞き課題を知る。	○もしも、森がこわされたらどうなるでしょう。 ・木がなくなる。 ・動物たちの住むところがなくなる。 ・空気が汚れる。 ○動物たちはどうするでしょう。 ・逃げる。 ・どこかに隠れる。 ・森を守るために人間たちを追い出す。 くぬぎの木の下で、人間たちは何を感じたでしょう。 ○森の生き物たちの様子から、人間たちは何を感じたでしょう。 ・風が吹いて気持ちいいなあ。 ・子どもの頃を思い出した。 ・虫取りや木登りをしたなあ。 ・小鳥の鳴き声がするなあ。 ・たくさんの動物たちがすんでいるんだな。 ・また、この森に来たい。	○絵などを提示して想像しやすいように工夫する。 ○くぬぎの木や動物たちの様子から、人間たちが自然の良さを感じていることに気づかせる。 ☆森のすばらしさ、自然の良さに気づいているか。
終 末	4 自分の思いや考えをまとめる。 5 手作り絵本のお話を聞く。	○くぬぎの木や動物たちに手紙を書きましょう。 ・人間たちに、みんなの気持ちが伝わって良かったね。 ・森がこわされなくて良かったね。 ・これからも、ほがらか森にずっと暮らせるね。 ・ぼくも、ほがらか森に行ってみたいな。 ・わたしは、木や生き物を大切にしたいよ。 ・森のみんなが静かに暮らせるように守ってあげるよ。 ○お話をききましょう。	○手紙文のように書かせ、個々の思いを引き出させるようにする。 ☆自然や生き物に対する、やさしさが表れているか。 ☆生き物の立場になって考えられているか。

道徳の時間学習指導案

福山市立旭小学校
指導者 高野 加奈子

1 日 時 平成14年12月10日（火）第5校時

2 学 年 第1学年 高野学級 23名

3 場 所 1年 高野学級

4 主題名 いきものもともだち 3－（1）自然愛・動植物愛護

5 ねらい やさしい心で動植物をかわいがり，進んで世話をしようとする心情を育てる。

6 資料名 「ぼくのハムスター」（心に響く道徳学習教材集 広島県教育委員会）

7 主題設定の理由

○ 自然や動植物を愛し，自然環境を大切にしようとする態度の育成は，環境教育の重要な課題でもある。低学年においては，特に，身近な自然の中で遊んだり，動植物を飼育栽培して自然に親しむ直接経験が必要である。この体験をもとにしながら，自然や動植物を愛するやさしい心を養うことが大切である。

○ 児童はこれまで，一人一鉢運動や生活科，社会見学などで，自然や動植物にふれあう活動を体験している。また，道徳の時間では，植物の生命力を不思議に感じたり，「みんないきている」の学習で，命あるもののぬくもりを感じたりしている。これらの学習活動を積み重ねていくなかで徐々に，自然のすばらしさを感じたり，動植物に強い興味をもち，親しみを感じてきている。その一方，常時行っている生き物の飼育の様子から，自分本位の接し方で，一時の気まぐれや思い付きで関わっているようにも見受けられる。

○ 本資料は，日常生活の中で起こりうる身近な出来事を題材としたお話である。主人公のみのるが誕生日のプレゼントにもらったハムスターを，最初はかわいがっていたが，友だちとの遊びや，習い事に気をとられ，ハムスターの世話を怠り，外に出たがって音を立てるハムスターに「うるさい。」と言ってしまう。その場面を役割演技することを通して，言ってしまったみのるの気持ちと，言われたハムスターの気持ちを感じ取らせ，生き物と一緒に過ごすためには何が必要なのかを考えさせていきたい。

本学習の後には，常時活動の生き物とのふれあいを通して，継続的に思いやりをもって関わろうとする態度を養っていきたい。

8 準備物 資料のマンガ，写真，ハム太郎の絵

9 学習展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の反応	支援○と評価☆
導 入	1 「とっとこハム太郎」のアニメについて話す。	○みんなは「とっとこハム太郎」って、知ってるかな？ ・テレビでよく見てるよ、かわいいよね。 ・ぼくの家でハムスター飼っているよ。 ・生活科の時間にも、ハムスターと遊んだよね。元気に動いていたよ。	○アニメについて話し合うことで、資料に対する関心を高め、自由に意見が出しやすい雰囲気をつくる。
展 開	2 資料「ぼくのハムスター」を読んで、課題をつかむ。	いきものって、どんなきもちでそだてるのかな。	○教師が資料を読んでも聞かせながら、主な場面のマンガを提示し、場面状況をつかみやすくする。
	3 資料の各場面のみのるとコロンの気持ち話し合う。	○コロンを飼い始めた時、みのるはどんな気持ちで飼っていたのだろう。 ・かわいいな。きっとかわいがるよ。	
	4 みのるがコロンに「うるさい」と言った場面をみのるとコロンになって役割演技する。	○コロンと遊ばなくなったみのるは、どんなことを考えていたのだろう。 ・疲れているから世話が面倒くさい。 ・忙しいんだもん。仕方ないよ。 ・ぼくも、学校で遊びたくてつい、世話を忘れることがあったよ。	○自分の体験を振り返りながら、みのるの気持ちを考えさせる。 ☆みのるがハムスターの気持ちになって世話をしようとしていないことに気づいているか。
	5 演技した時の気持ちをもとに話し合う。	○みのるがコロンに「うるさい」と言った場面でそれぞれの気持ちを考えよう。 (コロン) ・とてもいやな気持ちがしたよ。悲しい。 ・前はあんなに優しくかったのに。 ・広いところで遊びたかっただけだよ。 (みのる) ・うるさいと言わなければよかった。 ・コロンはいやな気持ちがしただろうな。 ・ぼくが世話をしなかったのに、コロンにひどいことを言ってしまったな。	○みのる役とコロン役を交代して役割演技をし、それぞれの気持ちを感じ取らせる。 ☆登場人物になりきって演技しようとしているか。
終 末	6 写真を見る。	○みのるくんは、これからどうするでしょう。 ・コロンを大切にかわいがると思う。 ・やさしく声をかけたりして、遊ぶ。 ・世話を忘れず、きちんとできると思う。	○生き物をどんな気持ちで育てればいいのか考えながらみのるの今後の様子を考えさせる。
		○写真を見てみましょう。	○みんなの生き物に対するやさしいかわりに目を向けさせる。